



# かもめ

校報「かもめ」  
第30号  
令和5年2月15日発行  
釜石市立唐丹小学校

## 未来へとつなぐ「思い」 ～「ハソウ贈呈式」を行いました～



間もなく、東日本大震災・津波から12回目の日を迎えます。本校は、今も多くの団体や個人の皆様から支援をいただいております。特に、唐丹希望基金 様(代表:高館千枝子 様)からは、体育館のグランドピアノをはじめ、これまでに多くの支援をいただいております。その唐丹希望基金 様から、今年は「ハソウ」という古代の楽器が寄贈され、2月8日(水)全校朝会にて贈呈式を行いました。

高館さんは東日本大震災・津波で犠牲になった方々を慰めるために、備前焼窯元にハソウの制作を依頼し、プレゼントするようになったとのこと。このハソウが唐丹小の子どもたちと支援者とを繋ぐ架け橋になってほしいと願っているのだそうです。高館さんの思いを子どもたちに伝えなければと思い、贈呈式の中で子どもたちに話しました。

また、実は今回、このハソウに校長の願いを刻ませてもらいました。刻んだ文字は「つなぐ」です。この「つなぐ」に込める願いも、贈呈式の場で子どもたちに伝えたいと思い、メッセージを朗読しました。【詳細は裏面を参照ください】

ハソウとその認定証を受け取った児童代表2名(齊藤瑛飛斗さん、鈴木琳雅さん)にハソウ贈呈式の感想を聞き取ったところ、次のように答えてくれました。

### 【児童代表の感想】

- ・古代の人々は、亡くなった人を慰めるためにハソウを吹いたことを初めて知った。東日本大震災で被害にあった唐丹にも当てはまると思い、嬉しく思った。
- ・いただいたハソウに、『つなぐ』などのいろいろな思

いが込められているとは考えもしなかったのが驚いた。それらの思いをしっかりと受け止めたい。  
・いただいたグランドピアノなどのおかげで、文化祭などもできている。支援のおかげで楽しい学校生活ができていることに感謝したい。そして、いつか恩返しをしたい。

この感想を聞いて、支援者の方々や私の思いは伝わっていると確信し、とても嬉しく思いました。子どもたちには、支援者の思いを受け継いで「困っている人や苦しんでいる人がいたら、見て見ぬふりをしない。自分にできることを考え、多くの人々と協力して行動する」人間になってほしいと願っています。

## 新・児童会、動き出す！ ～「代表委員会」で活発に意見交流～

2月13日(月)に、新・児童会執行部になって最初の代表委員会が開催されました。この日の主な議題は「6年生を送る会」の企画・運営について。新・執行部の提案に基づき、これまで唐丹小児童会の活動をリードしてくれた6年生に対してどのように感謝の思いを伝えるのか、楽しんでもらうのかを、子どもたちは活発に意見交流し、方針を決定していました。

この代表委員会での決議を受け、各学年は準備を進めていくことになります。3月3日(金)の本番が、今からとても楽しみです。



## 3月の予定 (2/14 現在)

- 3/1 (水) 安全の日 街頭指導 クラブ
- 3 (金) 6年生を送る会
- 6 (月) 年度末大清掃(～3/10) 期末事務作業(～3/10)  
【清掃あり・特別時程(～3/10)】
- 8 (水) あいさつロード(1年) 委員会
- 10 (金) 体育館使用不可(中:卒業式予行)
- 13 (月) 修了式全体練習(6年生以外)
- 14 (火) 図書集会
- 15 (水) 卒業式予行 当日(1・2年生は弁当なしの午前授業) 【特別時程】
- 16 (木) 修了式 午前授業(1・2・6年は3時間授業) 【特別時程】
- 17 (金) 卒業式(1・2年生は年度末休業) 【特別時程】
- 20 (月) 年度末・年度初め休業(～4/6)
- 21 (火) 祝日(春分の日)
- 24 (金) 離任式



「磨丹希望基金」EBC 連絡 130 号 2023-1  
一磨丹小中学生に届ける鎮魂と平和の思い



## 心の旅「鎮魂と平和」

### 未来へとつなぐ「思い」

釜石市立磨丹小学校 校長 柏崎 希之

学校の窓から見える磨丹湾。今日も海は、静かで穏やかです。海は、昔から私たち人間に多くの恵みを与えてくれました。しかし、海は私たち人間にたびたび試練も与えてきました。

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日、東日本大震災津波が発生しました。

この時、今の 6 年生は 0 歳。5 年生以下の皆さんは、まだ生まれていませんでした。

太平洋沿岸のまちは、多くの人々が犠牲となり、多くの財産が失われました。磨丹地区も例外ではなく、磨丹小の旧校舎も津波に飲み込まれて大破しました。

震災直後は大混乱でした。そんな中、日本国内や世界中から多くの人々が駆けつけて私たちに勇気づけ、支援してくれました。

あれから 12 年。今も変わらず、私たちが磨丹小・中を支え続けられる団体や個人の方々が大勢います。おかげで私たちは、ここまで復興の歩みを進めることができています。

この御恩に応えるために、キミたち磨丹小・中の子どもたちにもたしめることは何でしょうか。感謝の思いを手紙で伝えますという人もいます。また、歌で伝えますという人もいます。それらも立派な考えです。しかし、もっと広く大きな心で見渡し、考えてみましょう。

御恩に応えるために、キミたち磨丹小・中の子どもたちにもたしめること。それは、キミたちを支えてくださっている方々の「思い」を引き継ぎ、未来へとつなぐことです。

その「思い」とは・・・



困っている人が苦しんでいる人がいる 見て見ぬ振りはない

自分にてできることを考え、多くの人々と協力して行動する

キミたちを支えてくださっている方々の「思い」というバトンを引き継ぎ、未来へとつなぐ。それがキミたちの使命であり、帰還してであると考えます。そんな考えから、ハンウに刻む言葉を「つなぐ」としました。

今こうしている瞬間にも、世界で、日本で、身近な所で、困っている人々や苦しんでいる人々がいいます。そんな人々のために、自分にできることはないか、みんなと協力してできることはないかと考え、行動する人間になってほしいと願っています。

令和 6 年 1 月 12 日

